

第3回裾野市総合計画審議会 議事要旨

(開催概要)

1. 日時:令和2年3月17日(火)17:00~18:50
2. 会場:裾野市役所地下会議室
3. 出席者

<審議委員12名>

八木健二会長、西野勝明委員、藤井敬宏委員、山本睦委員、杉山はま子委員、望月康男委員、一之瀬徳博委員、市川加代子委員、小川孝委員、出口謙一郎委員、望月宏明委員

<関係部局長等12名>

芹澤行政経営監、湯山総務部長、鈴木環境市民部長、小林健康福祉部長、酒井産業部長、影嶋建設部長、杉山教育部長、永田議会事務局長、水口市長戦略監、石井子育て支援監、高梨監査委員事務局長、細井水道事業管理監

<事務局7名(企画部企画政策課)>

西川企画部長、加藤企画政策課長、坂田課長代理、渡瀬主幹、長田係長、勝間田主席主査、川上主任

(議事次第)

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事
 - (1) 第5次裾野市総合計画基本構想素案及び基本計画骨子案
 - (2) 第4次国土利用計画裾野市計画策定方針案
4. その他
5. 閉会

(配付資料)

資料1:第5次裾野市総合計画基本構想(素案)

資料2:第5次裾野市総合計画の施策体系

資料3:第5次裾野市総合計画基本計画骨子案

資料4:第4次国土利用計画裾野市計画策定方針(案)

資料5:将来都市構造図の見直し(案)

参考資料1:第2回総合計画審議会意見対応状況シート

参考資料2:国土利用計画について

参考資料3:第3次国土利用計画裾野市計画(改定計画)~概要版~

参考資料4:計画策定スケジュール

(概要)

○ 開会

(事務局)

- ・ 本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。
- ・ 定刻となりましたので、ただいまから、第3回裾野市総合計画審議会を開会いたします。
- ・ 私は本日の司会進行を務めます、企画政策課の坂田と申します。よろしくお願いいたします。
- ・ 裾野市におきましては、議会を始め新型コロナウイルスの対策として、マスクを着用したままで発言することとしておりますので御了承ください。
- ・ それでは、本日の資料の確認をさせていただきます。委員の皆様にはあらかじめ本日の会議資料を送付させていただいておりますが、お持ちでない方はいらっしゃいましたら挙手をお願いします。
- ・ 中身について、
 - 次第、座席表、名簿
 - 資料1: 第5次裾野市総合計画基本構想(素案)
 - 資料2: 第5次裾野市総合計画の施策体系
 - 資料3: 第5次裾野市総合計画基本計画骨子案
 - 資料4: 第4次国土利用計画裾野市計画策定方針(案)
 - 資料5: 将来都市構造図の見直し(案)
 - 参考資料1: 第2回総合計画審議会意見対応状況シート
 - 参考資料2: 国土利用計画について
 - 参考資料3: 第3次国土利用計画裾野市計画(改定計画)～概要版～
 - 参考資料4: 計画策定スケジュール
- ・ お手元に資料はお揃いでしょうか？
- ・ お揃いで無いようでしたら挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか？
- ・ それでは、早速、次第に沿って会議を進行してまいります。
- ・ 次第の2、会長挨拶。八木会長、よろしくお願いいたします。

○ 会長挨拶

- ・ 皆さん、こんにちは。
- ・ 本日は、年度末の大変忙しい中、御参加をいただきまして誠にありがとうございます。
- ・ 第2回目が開催されたのが去年の10月になります。それから大分日にちが経っておりまして、年も変わりました令和2年という形ですが、この間に大きな変化点が2つございました。
- ・ まず一つは、今紹介がありましたように新型コロナウイルスの感染拡大という部分でございます。まだまだ終息ということまでいっておりません。これからさらに拡散が進むという心配になっておりますけど、そういう中でのこういう会議体については色々御指導がありまして、なかなか難しい部分があるんですけど、この会議は今このタイミングでやらな

ければいけないという判断の下、開催をいたしましたので御了承ください。

- ・ また、予防等につきましては、行政の方でちゃんと対応してもらっておりますので、濃厚接触のないように宜しくお願いいたします。
- ・ さらにはもう1点の大きな変化点としましては、今年の1月7日にトヨタ自動車さんの方からあらゆるものやサービスがつながる「コネクティッド・シティ」プロジェクトが発表されました。
- ・ これは裾野市にて、実証都市となる「ウーブン・シティ」を展開していくことが決まりました。
- ・ これは既にトップニュースで展開されておりますので、本日の会議では、裾野市にとって大きなチャンスとなるウーブン・シティの要素を加味した上で、今後10年間のまちづくりの総合的な指針となる総合計画基本構想の素案と、基本計画の骨子案について、議論をしたいと考えております。
- ・ また、裾野市の土地利用の方針となる国土利用計画についても、今回の審議会から議論を進めていきたいと考えております。
- ・ 2時間という限られた時間ではございますが、皆様の積極的で、忌憚のない御意見をよろしく願います。

○ 議事

(事務局)

- ・ 八木会長、ありがとうございました。
- ・ それでは、本日の議事に入ります。以後の進行は、裾野市総合計画審議会条例第5条第2項の規定により、八木会長にお願いしたいと思います。八木会長、よろしく願います。

(八木会長)

- ・ それでは、議事(1)「第5次裾野市総合計画基本構想素案及び基本計画骨子案」について、事務局から説明をお願いします。

(1) 第5次裾野市総合計画基本構想素案及び基本計画骨子案

(事務局)

- ・ 皆様お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。事務局の企画政策課長の加藤です。説明は座ってさせていただきます。よろしく願います。
- ・ まず、昨年10月25日の審議会で、第5次総合計画の基本構想骨子案の説明をさせていただきました。それ以降、庁内の関係会議、市民や関係団体等で構成する策定協議会、中学生や高校生の意見も参考にしながら検討を進めてまいりました。
- ・ 現在、基本構想の素案、基本計画の骨子案をお示しできる段階となりましたので、その説明をさせていただきます。
- ・ 基本構想の説明に入る前に、計画策定スケジュールに一部変更がございますので、まず、スケジュールから御説明します。
- ・ お手元の参考資料4を御覧ください。これまでは総合計画を今年の9月に議決、国土利用計画を来年3月に議会に報告という形で作業を進めておりましたが、先ほど八木会長

からの御挨拶にもありましたとおり、今年の1月にトヨタ自動車様からウーブン・シティの発表があり、その動向も見ながら計画策定したいという思いから、総合計画と国土利用計画の策定期を合わせ、どちらも今年の12月に策定する形でスケジュールを一部変更しましたので御報告します。

- ・ それでは、ここからは基本構想素案の説明に移ります。
- ・ お手元の資料1「第5次裾野市総合計画 基本構想(素案)」をご覧ください。前回10月の審議会で、A3の資料でお示した部分になります。
- ・ 表紙をめくっていただくと目次となります。序論では、総合計画についての説明の他、市の特性、社会情勢の変化、課題の整理をおこなっております。
- ・ 基本構想は、この序論の次、次ページに記載しております。
- ・ 1ページからの序論では、策定の目的として、文章の最後にありますように、市民の「暮らし満足」の実現に向けて今後10年間のまちづくりの基本的な方向を示す総合的な指針を策定することとしております。
- ・ 計画の構成は、基本構想、基本計画、実施計画の3層構成であります。
- ・ 次ページをご覧ください。
- ・ 計画の期間は、基本構想については、令和3年から令和12年の10年間とし、基本計画は社会情勢等の変化に対応するため5年ごとに、また、実施計画は短期間として毎年見直しを実施します。
- ・ 次の第2章では、裾野市の特性(内的要因)として
 - ・ 1 世界に誇る富士山と豊かな自然環境
 - ・ 2 地域経済をけん引する産業集積
- ・ 次ページで
 - ・ 3 地域コミュニティのつながりと地域に誇りを持つ市民
- ・ を挙げております。
- ・ これらは、前回の資料に掲載しておりました、市民や各種団体の代表により構成される策定協議会で出されたキーワードをもとに取りまとめたもので、裾野市を取り巻く優れた自然環境、裾野市に集積した企業群、そしてそこに住む市民の特色を表現しています。
- ・ 次の第3章では、外的要因として社会情勢の変化について、9項目を記載しております。
- ・ この項目は、第1回目の審議会で示した「社会経済動向と本市への影響」の資料を基に整理したもので、そこに教育の重要性を、人生100年時代を踏まえ次ページの3番に追加しております。また、8ページの、未来技術の活用と持続可能な社会に関する2項目も、同じく資料記載のものであります。
- ・ 9ページからの4章では、裾野市における課題を挙げております。
- ・ まず、将来人口の見通しについてグラフをご覧ください。パターン①は、国立社会保障・人口問題研究所が平成30年3月に公表した推計値で、計画期間の2030年(令和12年)では、47,304人となっています。
- ・ パターン②は2025年(令和17年)に社会移動が均衡し、合計特殊出生率が2.07に上昇した場合を、
- ・ パターン③では2030年(令和12年)に社会移動が均衡し、合計特殊出生率が2.07に

上昇した場合を記載しております。

- ・ いずれのパターンについても定住を促進し、急激な人口減少を抑制する一方、人口減少社会は避けられないという前提のもと、説明の最後に記載しておりますように、人口や税収が減少しても、地域の営みや市民生活が充実する「縮充する社会」の実現に向けた取り組みが必要であることを示しております。
- ・ 次ページからは、これまでの状況を踏まえ、裾野市の今後の展望も含めた課題を整理しております。
- ・ これは、策定協議会のワークショップや庁内の意見等を参考に整理したもので、課題1「誰もが活躍できる地域づくり」では、少子高齢化にあっても若い世代の希望をかなえる子育て環境の整備や、女性、高齢者、障がい者等の活躍できる場の創出、個性や多様な価値観が尊重される共生社会の形成などが求められていることを掲げています。
- ・ 2「創業・起業にチャレンジしやすい環境づくりと定住促進」では、働き方改革や、進学や就職を契機とした人口流出に対し、企業誘致や産業基盤の整備、地域産業の活性化とともに、再び本市に戻り住み続けられるようなまちづくりの必要性を記載しています。
- ・ 3「地域資源を活かした交流促進・まちの魅力の発信強化」は、観光について、「モノ消費」から「コト消費」へ変化する中、各種シティプロモーションの推進、魅力ある観光商品の開発、スポーツツーリズムやオリンピックレガシーの活用など、まちの魅力発信の強化を記載しております。
- ・ 4「持続可能で災害に強く、市民が安心して住み続けられるまちづくりの推進」では、人口減少や超高齢社会に対応した都市構造の転換、環境負荷の低減などによる持続可能な社会への対応と、自然災害に対する地域の強靱化の取り組みの必要性を掲げています。
- ・ 次ページの5「地域で支え合うコミュニティの維持と企業や NPO などの多様な主体との協働・連携」は、人口減少など社会状況の変化に伴い、地域コミュニティの維持が困難となることが予想され、様々な地域課題に対応するため、行政、地域、各種団体、NPO、企業など多様な主体の協働、連携を前提として、まちづくりを進めていく必要性を記載しております。
- ・ 6「長期的な視点による行財政運営の健全化・効率化」は、人口減少時代を見据えた持続的な行財政運営が求められるとともに、デジタル化社会への対応の必要性などを掲げています。
- ・ 13ページをご覧ください。基本構想は、枠で囲まれた部分にありますように、市のまちづくりの羅針盤、となるものであります。
- ・ 次ページをご覧ください。これからの裾野市が進むべき方向性を示す「まちづくりの方針」として、
 - ・ 住み続けたいまちづくり
 - ・ 人や企業に選ばれるまちづくり
 - ・ 快適で安全・安心なまちづくり
 - ・ 協働・連携するまちづくり
 - ・ 未来志向のまちづくり
- ・ の5つを定めております。前回資料でお示した5つの方向性がもととなっておりますが、

それ以降、検討を重ね、現在の内容に進化しております。

- ・ その内容は、「住み続けたいまちづくり」では、結婚から子育てに対する支援や特色ある学校教育、生涯教育、誰もが活躍できる場づくりの充実、人が集まり楽しめる場や機会の創出など、裾野市に「住み続けたいまちづくり」を進めます。
- ・ 「人や企業に選ばれるまちづくり」では、関係人口の増加を図り、地域経済の活性化とまちのにぎわいを創出するなど「人や企業に選ばれるまちづくり」を進めます。
- ・ 「快適で安全・安心なまちづくり」では、防災・減災に資する都市の強靱化を図るほか、食の安全の確保、環境負荷の低減、道路等の都市基盤の整備を行うなど、「快適で安全・安心なまちづくり」を進めます。
- ・ 「協働・連携するまちづくり」では、人と人のつながりを大切にし、地域で支え合うコミュニティづくりや市民協働によるまちづくりを推進するとともに、多様な主体との連携を図って「協働・連携するまちづくり」を進めます。
- ・ 「未来志向のまちづくり」では、先進技術の活用により効率的で効果的な行政サービスを提供するほか、絶えず未来をイメージし、ワクワクしながら新しいことにチャレンジできる「未来志向のまちづくり」を進めます。
- ・ 16ページをご覧ください。ここにありますように、富士山、豊かな自然、地域経済をけん引する企業、地域コミュニティのつながり、地域に誇りを持つ市民等の〈裾野市らしさ〉を基に、先ほどの5つのまちづくりの方針を踏まえ、裾野市らしい田園と未来都市がうるわしく調和する「みんなが誇る豊かな田園未来都市すその」をまちの将来像としました。
- ・ この将来像を実現するため、5つの施策の大綱を定めたものが第3章となります。10月の骨子案にありました「施策の大綱」から各方面のご意見をいただきながらとりまとめたものであります。
- ・ 施策の大綱につきましては、施策体系を1枚に取りまとめた A3サイズの 資料2「第5次裾野市総合計画の施策体系」をご覧ください。
- ・ 一番左側には、先ほど説明しました5つのまちづくりの方針、それを受けた「まちの将来像」があり、その将来像を実現するための5つの施策の大綱を記載しております。ここまでが基本構想になります。各大綱につながっている「施策の柱」と「基本事業」が基本計画に対応する部分となります。
- ・ 施策の大綱の1つめは、子育て、教育、健康、文化の分野で、「ひとりひとりが輝けるまち」であり、その施策の柱として、1-1「安心して子どもを産み育てられる環境づくり」から1-6「多様性を尊重した共生社会の形成」までを位置づけています。各施策の柱には、該当する基本事業を掲載しております。1-1の基本事業を見ますと、(1)から(9)まで事業が記載され、全体として、出会い、結婚から出産、子育てまで切れ目ない支援を形成し、「安心して子どもを産み育てられる環境づくり」を目指すものとなっております。この他の施策の柱として、子供の教育、生涯学習、健康づくり、スポーツ・文化・芸術に親しむ環境づくり、多様性を尊重した共生社会の形成が含まれています。特に子育てや教育、健康については、大綱の1番目に掲げております様に、力を入れていく姿勢を示しております。
- ・ 2つ目は産業、観光の分野の「地域資源を活用した魅力あふれるまち」で、2-1「企業

誘致・定着の推進」から2-6「富士山麓の魅力を活かしたスポーツツーリズムの推進」までの6本の柱で構成されております。企業誘致とともに産業連携も進めてまいります。また、分野として観光を明記しましたように、宿泊需要への対応や観光ニーズの変化に対応する観光政策にも取り組んでまいります。特に2-6のスポーツツーリズムは、準高地トレーニングやオリンピックを契機としたサイクリングなど、富士山麓の魅力を最大限に活かした取組として力を入れて行くものであります。

- ・ 3つ目は、環境、防災、医療、地域福祉の分野で、「安全・安心に住み続けられるまち」とし、3-1「環境に配慮した持続可能な社会の形成」から3-5「地域で支え合う福祉の充実」の5本の柱で構成されております。地球規模で課題となっている地球温暖化対策や資源循環型社会の形成など、環境に配慮した持続可能な社会の形成とともに、災害に強くしなやかな地域づくりを進めていきます。また、市民生活の安全・安心を確保するために、防犯や交通体制の充実、地域医療・地域福祉体制の充実を目指してまいります。
- ・ 4つ目は都市・交通・社会基盤の分野で、「将来を見据えた暮らしや活動を支えるまち」とし、4-1「次世代型近未来都市の形成」から4-7「衛生的で快適な下水道の整備・保全」の7本の柱で構成されております。4-1で次世代型近未来都市の形成をうたい、ウーブン・シティと連携し、先進技術を活用した次世代型近未来都市の形成を進めます。これにつきましては、本日、お示しできなくて大変恐縮ですが、この部分に特化した「次世代型近未来都市構想」を第5次総合計画とは別に策定しております。今月 23 日の議会最終日に、市長から議会に対して報告する予定となっております。その他、駅周辺の拠点整備、交通環境の整備、道路や上下水道の整備・保全に取り組んでまいります。
- ・ 5つ目は住民自治・都市経営の分野で、「時代のニーズに応えられるまち」として、5-1「住民自治によるコミュニティの促進」から5-8「適正な監査事務の促進」の8本の柱で構成されております。市民協働によるまちづくりやすその魅力を高めるシティプローションを引き続き推進していきます。また、デジタル化への対応としてスマート自治体の構築に取り組むほか、持続可能な行財政運営のため、絶え間ない行財政構造改革を引き続き進めるとともに公共施設等マネジメントの推進や時代の変化に対応できる人材育成等に取り組んでまいります。
- ・ 資料3をご覧ください。こちらが基本計画の骨子案となります。施策の大綱に紐づく施策の柱ごと基本事業をとりまとめたものであります。
- ・ 1枚めくっていただくと、施策の大綱1に関しては、先ほどの施策体系と同じ6本の施策の柱がございます。
- ・ 向かいの2ページをご覧ください。
- ・ 上の表には、施策の柱として「1-1 安心して子どもを産み育てられる環境づくり」があり、そのありたい姿として、「子育てにおける多様なニーズに応えるため、切れ目のない支援を行っています。」という状態が、施策の柱の方向性として、「切れ目のない支援サービスにより子育て世代を応援し、子育てしやすいまちを目指す」ことを示しています。
- ・ 成果指標の候補としてここでは3つが挙げられています。
- ・ その下の施策実現の手段(基本事業)は基本事業の説明となっております。(1)出会い・結婚・出産しやすい環境づくりという基本事業とその内容、主な取り組みとして婚活支援

等を記載しております。個々の説明は省略させていただきますが、各大綱ごと、施策の柱及び基本事業について取りまとめております。

- ・ また、基本計画については、今後、この骨子案を基に検討を進めてまいります。
- ・ 以上が基本構想(素案)、基本計画骨子案の説明となります。

(八木会長)

- ・ ありがとうございました。議事(1)の説明が終わりました。
- ・ それでは、ここから概ね1時間、協議の時間を取りたいと思います。まず、基本構想素案について議論した後、基本計画骨子案について議論したいと思います。
- ・ 基本構想素案について、御意見や質問等がありましたら挙手をお願いします。

(望月康男委員)

- ・ 質問の前なんですけど、今説明の中でウーブン・シティの問題については別途計画を作るということで話がありましたけど、そこら辺の関係を話してもらえますか。

(事務局)

- ・ 総合計画といいますと、市の全体的な方向を示すものであります。コネクティッド・シティ構想、ウーブン・シティに関係した部分につきましては、実証都市が裾野市にできるということで、市全体から見ますと大きなインパクトではあるんですが、基本構想にそれをそのまま組み入れるというのは、計画がまだどのような形になるのか分からないというところが実情でございます。
- ・ そういうふうなことから、分けて別冊にした方が2つの計画の性格がはっきりするというようなことがありまして、別立てにするということを説明させていただきました。

(望月康男委員)

- ・ 分からなくてもいいけれど、私が思うのは先ほど会長からもありましたけど、全世界に発信されたということで、ネガティブになっていた裾野に相当なインパクト与えたということで、内容は確かに今言われたように、まだまだこれからだということなんですけど、あの大企業が試行錯誤してやることについて、もう少し市が乗り込んでも良いのではないかと考えています。
- ・ CASE だとかモビリティの問題だけではなくて、暮らし全般に絡んでくると、2,000人規模というそこだけの話ではなくて、そこからはゴミも出ますし、し尿も出ますし、色々なものに絡んできますので、そういう意味で一企業の話だよということではなくて、もう少し取り込んで、これから10年先の話をするわけですから、もう少し取り込んでも良いのではないかと考えてお聞きしました。

(八木会長)

- ・ ありがとうございます。その他にございましたら。

(西野委員)

- ・ 今の御意見の続きで申し訳ないんですけど、別立てというのはどういう内容になるのか。つまり、ウーブン・シティの構想に対しての市の関与の仕方だとか、あるいは活用の仕方だとか、あるいはこの総合計画にあるような「生活」だとか「教育」だとか、その他のところにも全部言及したような、ウーブン・シティを中心に市の全体の色々なところに関わるものなのか、あくまでもウーブン・シティに対しての内容になるのか、それによって総合計画

との位置づけ、関係が変わってくる気がいたしまして、今年の年末に内容が決まるというふうになると、まだ時間はあるにはあるんですよ。ですから、両立てでそのまま並行して進むとなるとどういうふうになるのか少し分かりづらいと思います。

(事務局)

- ・ ウーブン・シティそのものは事業者さんの方で決めて色んなことをやられるんですけど、そこで得られた知見をできる限り市全体へ押し広げて行くようなことを構想として考えております。
- ・ ただ、正直言いまして、まだどういうものがどういうふうになっていくのか分からないということがあるものですから、熟度がまだ低いということがありまして、総合計画の中ではそこも考えまして、4-1 でウーブン・シティの対応ということで近未来の都市を創るというような項目立てをしております、そこで連携を取るような形を取っております。
- ・ そういうような形で現在作業を進めているという状況であります。

(西野委員)

- ・ ありがとうございます。1つ教えていただきたいのは、ウーブン・シティの構想は裾野市さんとトヨタさんがある程度調整しながら進めて行くという形なのか、あくまでもトヨタさんが進めるのを受けて裾野市さんが対応を図っていくということなのか。つまり、あの構想に地元の市が、地域が関わりながらあのまちができていくのか。逆にまちが先に作られて、裾野市さんがそれを受けていくのか。その辺の関係がまだよく分からないものですから、協調してやっていくということであれば、市がどんどん関与する可能性があるんですが、その辺がもし分かりましたら教えていただきたいと思います。

(西川企画部長)

- ・ 基本的にはトヨタさんが進めておりますウーブン・シティは、あくまでもトヨタさんの敷地内の事業活動に当たりますので、そこはそこで1つのまちづくりを進めて行くという形になるうかと思えます。しかしながら、ウーブン・シティのエリアも当然市域に含まれますので、我々行政からしますと1つのまちの中の1区画という捉え方をしなければなりません。ただ、ウーブンの影響が市域の中にどのような形で出てくるのかはまだ捉えきれておりません。しかしながら、先ほど御意見がありましたように、ゴミの関係ですとかは当然、人が住むわけですから交流もあります。そういった関係では、これからウーブンの、トヨタさんの事業内容を見ながら、しかもこの構想案にもあるんですけど、そういった部分も含めて、将来のまちのあり方を考えるときには、新しい技術というものが当然必要になってきます。そういった部分は多分ですけど、これからトヨタさんの新しいまちとの関係、連携が必ず必要になってまいりますので、そういった意味合いでの進め方をこれから考えていきたいなというふうな形で、この総合計画の中で位置付けをさせていただいております。

(出口委員)

- ・ ウーブン・シティの話でまた恐縮ではございますけど、今、企画部長からトヨタの一事業体のことで、まだ分からないこともあるという中で模索しながら進めて行くと、そういう御回答だと思んですけど、おそらく我々の方としてもウーブン・シティができて、市民の皆さんもこれができることによって、例えば岩波とか深良の地域とかがどういうふうに進展していくかと。今後予想されるのは、例えば今後実証都市を創るとなると色んな方が世界

中から来ることになると思うんですけど、そういった世界中の人たちをどのように受け入れるのか。今トヨタさんも色々な企業さんと連携してやりたいと、そういう表明をされているようですので、色々な企業さんが裾野に入ってくるということも色々想定されると思うんですけど、10年間の総合計画の中では、私とすると一つトヨタさんというのが結構大きなキーになるのかなと思っております。なかなかまだ分からなくて入れづらいということは理解できるんですけど、もうちょっと具体的なものなんかを入れ込んでいってもよろしいんじゃないかなと思いました。

(山本委員)

- ・ ウーブン・シティのことが気になるころではあるのは分かるんですけど、例えば先月に私、実習とかで色々な園とかに回りました。その時には、保育園の先生方はその2,000人のために教育を何か新しいものを持ってくるんじゃないかというふうに考えていたりもするわけですね。でも実際のことを考えて2,000人のために教育の体系を作るというのは非合理的な話なので、そういう部分で例えば市の教育資源というものを求められるということは可能性としてあるとは思いますが、そういうことがまだ何も決まっていない以上、そこを議論してもあまり私は意味がないかなというふうに思っていて、それは情報公開されてから個別に対応すれば良いことかなというふうに私自身は考えています。
- ・ それ以上にこの体系を今見せていただいて、この中で内的矛盾がすごくあるので、ちょっとそこら辺を整理していただきたいなということが一番思っていることです。
- ・ 私が特に関係しているのは大綱の1なんですけど、教育思想的にもものすごく矛盾があって、何で「ひとりひとり」になっちゃってるんですかねというところなんです。教育思想的に考えると、個に対して働きかけるという発想ってモダンなんです。近代なんです。それが今行き過ぎているのが問題で、保育所の保育指針だったり幼稚園の教育要領だったり、来年度から始まる学習指導要領だったりで示されている学力が変わってきているわけですね。
- ・ 簡単に言っちゃうと、今の子どもたち自己が肥大化しちゃってるんですよ。自分しか見えないんです。自分の視点しか取れなくて、他者の視点が取れないんですね。これは結局離婚であるとか離職であるとか色々な社会問題の根っこにある。そしてそれをどうにか欧米と足並み揃えて変えて行こうというのが、ここへ来ての日本の教育施策なんです。なぜ内的に矛盾があるなと思ったかという、まちづくりの方針のところでも「協働・連携する」ということが書いてあって、協働・連携できる個を育てるわけですよ。だったら最初に「ひとりひとりが輝けるまち」だけでは、すごく誤解を生みやすく、そうすると個人の教育的な資本というものに任せてという意味にも捉えられやすいですし、今はシチズンシップ、市民性の教育であるとか、他者と協働していく力というのを育てましょうというふうになっているので、例えば、むしろ連携の中で「ひとりひとりが役割を持てる」ということだったら分かるんですけど、連携の中も何もなくて、いきなり「ひとりひとり」ってなると、また近代の、教育思想的に言うとルソーみたいなものに逆戻りするの、この市は、ってことになるんです。
- ・ ここが一個すごく大きな矛盾があるので、言葉の選び方ですよ。「ひとりひとりが輝けるまち」って、「ひとりひとり」ってどういうことだろうなって。個に働きかけるんですか今

時、っていうふうに取りれがちになるので、中で見られてるのは多様性とか、差別偏見なくしましょうとか、誰でもチャンスを持てるということなんだと思うんですけど、でも個に焦点を当てる教育というのはちょっとズレてるかなという気が私はしました。

- ・ それともう1点なんですけど、やっぱり気になるんですけど、成果指標というのが、主な取組みのところには「質」「質」って出てくるんですけど、質の評価が全くできない。量的な指標のみで、評価基準を設けようとしているところがすごく気になります。
- ・ 実際に数値で表すことの難しさがあるのは分かるんですけど、だとしてももうちょっと質の面で評価できる、数が上がったから万歳とか、数が上がったから良かったねっていう話になるよりも、もうちょっと質的な変化を追えるような指標というのを盛り込んだ方が良いんじゃないかなと思うんですね。
- ・ 例えばすごく分かりやすいのが、3 ページのところの 1-2 の「次世代を担う子どもの教育の推進」で「教育用コンピュータ1台当たりの児童・生徒数」っていうハードの部分しか追っていない。つまり、それを利用して何かを作り上げるとか、今まで ICT じゃなくてやっていたものが ICT に振り替えられた比率を求めるとか、っていうことではない。
- ・ こういう指標だけを追っていくと、また評価委員会とかになって達成率どうのこうの ABC とかで評価をしなければいけないんだと思うんですけど、この時点でやっぱりもうちょっと質とか変化とか、そういうものを追えるような指標を是非組み入れていただきたいなというふうに思いました。

(事務局)

- ・ 指標の方につきましては、これは候補ということで今後色々な指標を検討していきたいと考えております。
- ・ それから「ひとりひとり」については、自己の肥大化ということにまで思いが至らなくて、とにかく個人個人を大事にして、その上でみんながというふうな形を考えていたものですから、それで「ひとりひとりが輝けるまち」というふうな表現にしたところがございます。

(山本委員)

- ・ 先に前提として、連携とか協働とか他者と関わっていくということが枠の中でないと、ちょっと誤解を生みやすい表現だと思うので、是非そのところは修正をお願いしたいと思います。

(八木会長)

- ・ それでは、ちょっと大変かと思えますけどよろしく申し上げます。その他にございますか。

(藤井委員)

- ・ 藤井です。当初のところからウーブン・シティの話が随分出てきて、それは裾野にとってまだ見えない形のものではあるけども、ある程度運動していかなければいけないものだろうと思います。総合計画の中に枠組みは入れとかないといけないだろうと私は思っております。
- ・ その中で資料 2 のところで見ると、4-1 の次世代という枠組みの中に入るのは良いんですが、これは基本事業はまた検討していただけるんだと思いますが、ウーブン・シティと連携したコンパクトシティ・プラス・ネットワークというキーワードが入っています。何となくどういう位置づけになっているのかよく分からないなというところでは。そして、先ほど委

員の方からも言われましたけれど、ウーブン・シティというのはあれだけプレゼンテーションされたということで、世界が裾野のまち、裾野といったまちを知らなかった世界、それから日本の中でも裾野といったまちを知らないという人が多いだろうなと私は思うんですが、あのプレゼンテーションだけで裾野といったものも世界基準になってしまった。それぐらいのインパクトがあるプレゼンテーションと、それからこれから起きるまちづくりという形になっている。

- ・ 民間企業であるにしても日本を代表する、トヨタが潰れたら日本が潰れるぐらいの、そういったところが1つこのまちづくりに関わる方向を示した。それをどう組み込んでいくのかといったようなことを考えると、総合計画は10年ですので、もしかすると10年のさらにその先の10年ぐらいを見込んだ形のを未来都市の中では考えていかなければいけないだろうなと思っています。
- ・ というのは、この10年は下地作りといったところがかなり中心になっていって、先ほど私、都市計画審議会に出席したんですが、裾野市の都市計画マスタープランを変更すると。これは都市計画マスタープランで工業地域といったものを変更しない限り、実際には新しい住民が暮らしを行うことが用途的にできない。こういったことをある意味変更して、やる。なかなか一民間企業のためにやるということは、本来はなかなかないものだろうと思います。そういった中で、裾野市並びに静岡県あげての全体の動きがこの地区に入る、そのインパクトをどう捉えるかということがすごく大事だろうと。
- ・ そういった中では、単なるコンパクトシティ・プラス・ネットワークで連携するということではなくて、ウーブン・シティから出てくる、そういったものを都市計画の中にどう組み込むかということをもう少し都市マス絡みのところから意見を聞いて、総合計画のなかに組み込む必要があるかなと私は思っています。
- ・ そのためには、先ほど「国際的な」というキーワードが出てましたけど、やはり日本人が意識しているよりも海外の企業なんかも意外と注目している案件で、且つ、今世界で動いているところだと、トヨタのまちとあと中国、ここで1つのまちが近未来型の都市としての取組みに手を付けると。そういったときに世界の動向の中でどっちが先になるのかというと、今の中で行くと中国の方が全体的に動きが大きいかなという気がしていますが、一民間企業の中でもそれを支援する仕組みとして裾野が行うと、この裾野市から発信するウーブン・シティは世界標準といったことになるぐらいのまちづくりにつながっていく。
- ・ そう考えてくるときに、総合計画として国際的な人たちを受け入れる仕組みあるいは教育の仕組み。先ほどのキーワードの中でも、多分化共生なんていったところも、単なる多分化だけの話ではないものがこの中で動き出していく。
- ・ そういった面では、事務局の方は相当大変な局面にこれから入ってくると思いますので、この1年間の中でトヨタから出てきた具体的な案件が上がってきたときに、この構想の中にできるものがあるのかなのか、この辺のところを意識してアンテナを張って行っていただくしか現状はないのかなという気がしています。
- ・ その中で是非積極的に行政のサポートする仕組みとして、組み込みができるところは書き込みをしていくぐらいのところがあってもいいかなというふうに思っております。
- ・ 一民間企業だから本来支弁できないだろうという考え方も公が民に対してサポートしすぎ

てはいかがなものかという考え方もあるかもしれませんが、しかし、民が動くことによって、それを公が支えることによって新たに動く計画というものがある。今回の例では世界型になってきますので、是非そういった面では事務局はプラスアルファベースで頑張っていたきたいなど。細かいものはないんですが、応援というメッセージです。

- ・ そういった中では、都市マスの変更も含めてということでこれから動きますし、総合計画の中に、逆に言うと先ほどスケジュールが出てきましたけども、もっと細かいタイミングで総合計画の変更みたいな要件が出てくる可能性もあるかなというふうに思うので、そういった面では審議会回数をもっと増やさざるを得ない。それぐらいの覚悟でやっていただけるとありがたいなと思います。
- ・ すいません、具体的なものはないんですけど思っただけです。

(八木会長)

- ・ 全市民、非常に関心が高い中身であって、皆さんこのような心配をされていますので、よろしくお願ひいたします。

(西川企画部長)

- ・ 今仰いましたようにウーブンの位置づけは非常に悩ましいところございまして、正直に言ってここにどのような形で記載しようか、大分検討はしました。そして、あまりウーブン、ウーブンというふうになると、ウーブンのためのまちづくりになってしまうと、そういった意味合いもあったものですから現段階ではこういう形の表記になっていると御理解いただきたいと思っただけです。
- ・ 先ほど課長からも話があったんですけど、次世代型近未来都市構想という中で、実際には具体的な動きや方向性を示していきたいなど。その構想に基づいて、個別の事業が組み立てられていくのかなという形で考えております。
- ・ これからトヨタさんの動きが進んで行く中で、随時対応して行かなければならない。我々、企画部事務局のみならず、色々な面で関係がございまして、健康福祉も然り、建設も然り、教育も然りというところで、方向性だけはしっかり総合計画の中で決めさせていただいて、その対応をこれからしっかりやっていきたいというふうに考えております。以上でございます。

(市川委員)

- ・ 最初は、2,000人のまちができてどう対応するのかということを入れ込んだ方がよいんじゃないかと思っただけですけど、まだ細かいところは何も決まっていないうことですので、1つ専門分野、例えばこの中でいつも説明を求めます。これは良いことだろうけど、もしかすると良いことばかりではないかもしれない。環境アセスメントの考えで質問して答えていただく。色々途中で市民に対して説明をいただくような窓口を何かできるように作っていったらどうかと思っただけです。
- ・ 六ヶ所村なんかでは、世界中の学者が集まって、そのために普通の中学校でも、そこにいる専門の中学校も小学校あります。そういうところの子どもたちが地元の学校に出て一緒に共通に色々なことを話したりやったりしています。
- ・ それから、そういうこともあるので、一般市民の声も聞いていったらどうか。それからトヨタは世界的な企業ですから、色々な行政を巻き込みます。産業廃棄物処理場を作る

ときも一市町、一県では対応できないことでも、産業廃棄物の処理をしましよとか、他の廃棄物を処理しましよ、そういう計画を動かせる規模です。

- ・ ですから、一事業者という捉え方だけでなく、早い段階から開かれた形で市民に情報提供ができるような形を。そしてそれには専門家が関わっていく。そういったことを期待したいと思いますので、うまい具合で組み込んでいただければと思います。以上です。

(八木会長)

- ・ 行政への要望ということでよろしくお願ひします。ちょっと余談なんですけど、マスクの件で国の方でマスク何とかチームを作って、配るような手配をしたというニュースを最近やっていたよな。そういうことで、何かウーブン絡みでドーンと部署を設けるとかそういう話は今のところないんですかね。

(西川企画部長)

- ・ 3月定例会の市長の施政方針の中で、ウーブンといいますか、新しいまちづくりに向けての庁内体制を発表させていただいております。
- ・ 基本的には副市長をトップにおいて各部局長のメンバーでプロジェクトチームを組みます。そしてそのプロジェクトチームの事務局が企画政策課という形で、1つの体制の中で今後のウーブン、トヨタさんとの付き合いですとか、新しいまちづくりの方向性というものを示していく予定です。以上でございます。

(西野委員)

- ・ 私の方からは2点あります。1つは「人や企業に選ばれるまち」ということで私の意見を踏まえてこういうふうに変えてくれたんですけど、私の趣旨としては、もう少し地域がやや目線を高くと言いましよか、「選ばれる」というのは受け身で、むしろ人や企業が裾野市の魅力でどんどん来てくれるというか、そういうまちづくりを目指すべきではないかなと。
- ・ そして先程来のウーブン・シテイが実現していけば、人や企業が来たいというふうになっていきますので、むしろこちら側が選ぶぐらいのプライドを持ってやっても良いかなということ。
- ・ 他のまちの総合計画もこういうものが多いんですけど、関係人口というのも大都市部が主人で、地方が従的な関係にあるような捉え方が非常に上から目線な感じがあって、あんまり良いものではないと私は思っております、もう少し地域主体の姿勢でやっても良いんじゃないかなと。
- ・ 裾野市さんは今すごくチャンスとなっておりますので、まだ咀嚼ができておりませんが、振り回されてはいけないけれども、主体的にそういうものを活用していくということで、是非そういうチャンスを活かすというふうにしていただければなと思います。
- ・ 2,000 人もの人材が来るだけでも非常にある意味でチャンスになると思います。
- ・ それから2つ目は、会長が冒頭に仰ったように大きな環境変化、今回のパンデミックですね。これについての内容が反映されてないので、単なる防災という捉え方ではなくて、それ以外の色々な経済危機や政治的なテロとか色々なことが考えられますので、危機に強いと言いましよか、そういうまちづくりというふうに、より範囲を広げた方が良いのではないかと思っております、安全・安心のところにももう少し広い意味でのパンデミックを入れていただいて、危機に強くなやかなまちの形成というものを目指していただいたらど

うかなというふうに思います。以上です。

(八木会長)

- ・ これは要望ということでよろしいですね。その他ございますか。

(藤井委員)

- ・ 先ほど山本委員からも言われた成果指標の絡みのことなんですが、今、私、別の自治体の総合計画の策定に関わっている中で、やはりアウトカムベースといいますか、成果指標という形で達成度を出さなくちゃいけないということで悩んでいる自治体が非常に多いです。
- ・ ある自治体では、成果指標といったものを基本指標、これは統計的な、今回裾野市さんで出ているような数値で出せるものと、もう1つは状態指標という言い方をしております、定性的なデータとして、まずは生活レベルが確保されてるのかどうかと。そういったものを評価しましょうと。
- ・ その両面を見て、例えば必要条件十分条件という形で成果指標だけ並べれば、確かに数値上の達成は分かるけれど、その目標を達成できたかどうかはなかなか判断しにくい。そういった面では、状態指標という形である意味、今の現状がどういうふうに推移しているのかということを追っかける。そういった指標も良いのではないかなということで検討している自治体もございます。
- ・ ここは非常に難しいところなので、裾野に合って、これをどういう形で活用するか。5年ごととか1年ごととか、色んな仕組みでチェックしていくことになると思うんですが、1年ごとに結果が出てくるような指標もあれば、5年 10年経たないと結果が出ないというものもある。
- ・ そういった面では、その時間的な経緯の中で成果指標をきちんと分類していくような考え方、そういうものを持っていかないといけないかなと思いますので、これから検討されるということですので、個別数値が出るものだけにこだわらずに、少し枠を広げた形で検討していただけるとありがたいなと思います。以上でございます。

(望月康男委員)

- ・ 先ほどの続きなんですけど、市に注文を付けたいと思います。いずれにしても消極的に見えるんですよ。これだけのアピールをしておいて今日来たら相当深くあるのかなと思ったんですが。というのは、こちらから本当に情報を取りに行っているのかと、いつ情報をもたらったのかというような疑問があったんですけど、どっちにしても今、企業が調子が良かったのが大分衰退して、それに伴って市の経済状況も悪くなってしまったところもあって、そういうリスクを怖がっていたのでは、この問題、勿体ないなと。もう少し積極的に。市民が今一番関心を持って、何かと言えばその話が出てくるぐらいなので、もう少し積極的に。
- ・ このあと、別で議会に出るということなんで、それを見てからの話の方が良いのかもしれませんが、リスクを怖がらないで、あの大企業が試行錯誤して世界に打って出ようとしているときに、市があまり消極的ではいけないですから、是非そこら辺はもう少し積極的にやってもらいたいなと。これは注文なんですけどね。
- ・ それから、私も前回から今回の間に年を取りまして、80を過ぎてしまったんで、藤井先生

の我孫子市の例じゃないけど、若い人をこの中に入れた方が良いんじゃないかと、大分反省しまして気にしてたんですけど。

- ・ 高齢者の代表というようなことで言わせてもらおうと、裾野市は健康寿命で1、2を取ったことがあるぐらい健康な高齢者が多いということなんですけど、この健康寿命というのを考えたときに、ここには何か所か「100年時代」というのが出てくるんですが、健康寿命については1行だけ保健のところにだけ出てくるだけなんです。そこをもう少し入れてもらいたいなと、健康寿命のことを。
- ・ もう少し生きがいを持って、健康寿命の延伸というものをどこかにきちっと入れて、国でも延伸の話が出てましたけど、そこら辺をもう少し高齢者のところに入れていただきたいと思いました。
- ・ (資料3の)17ページに「被保険者の健康寿命の延伸と医療費の適正化を図ります」とありますが、やはり医療費とか介護費が上がってまして、福祉の関係は相当な予算が掛かってますので、そのためにもそこら辺を少しアピールしてもらいたいなと。これは意見です。

(岩瀬委員)

- ・ 裾野青年会議所の岩瀬です。お疲れ様です。ちょっと色々見させていただいて、少し気になったのがトヨタさんのおかげで、ウーブン・シティでかなり裾野市が注目されている。その中でこれをどれだけ利用させていただくという失礼かもしれないんですけど、裾野市のイメージを変える大チャンスだと思っていて、正直言って裾野って地味ですよ、僕ら世代からすると。
- ・ そしてここに関係人口、14ページ、まちづくりの方針ということで関係人口の増加と書いてあるんですけど、今のままで言うと人は出て行くばかりで、裾野に住んでいる私たち世代もわざわざ沼津とか三島とか御殿場の方の飲食店に行ってしまうとか、子どもたちも市外に遊びに行ってしまうという形が主になっていると思います。
- ・ これを今回このウーブン・シティというのが出て、僕は個人的にですけど裾野が発展すると、すごい期待をしました。岩波の地区とか深良とか色々書いてありますけど、駅前なんか夜に人が誰もいないような状態で、なかなかこのままで世界から人が来て恥ずかしい思いするんじゃないかなというふうに思います。
- ・ せっかくここに人が来てくれて裾野市に来てくれた中で、飲食店が少ないからご飯は外に、沼津市とかに行ってしまうとか、そういうのも勿体ないのかなと。
- ・ まず一番最初に取り組む、目に見えてというか、もう少し自分たちに誇りを持てるというか、周りの市町の人が裾野にわざわざご飯を食べに来る。そういうふうなところをもう少し、一番近いところに目を向けていただいていた方が良いのかなと。
- ・ もう少し分かりやすく織り込んでいただいた方が良いんじゃないかと思いました。意見です。

(山本委員)

- ・ バーっと読ませていただいてすごく思うのが、裾野だからできることってこの中に何かあるんですかっていうところなんです。藤井委員も仰ってましたけど、他の市とかで、こういう総合計画の施策とかを見ると、特に違うというか、裾野だからできることがどこにある

んだらうなど、すごくざっくりした質問なんですけど、そこを目指しては作られていないのかどうなのかというところを伺いたいです。

(八木会長)

- ・ 裾野らしさということでよろしくお願いします。

(事務局)

- ・ 総合計画につきましては、いつもそういう御意見が出てまいります。皆さんが住みたいまちというのは大体共通している部分があるものですから、そこを目指していくと大体同じような形になるというのが1つ。
- ・ 裾野ならではのということになりますけど、例えば今回、施策の柱でいうとスポーツツーリズムの推進なんかは、これは裾野市ならではの高低差を活かした準高地トレーニングをにらんだり、また東京 2020 オリンピックの競技が行われるなど、そういったこともありますのでそういうようなところで特色を出しています。
- ・ また、今まで総合計画としては、例えば「観光」といった部分が表出しできてなかったものですから、そういうような部分を表に出すような形で、裾野ならではのまちを作っていこうということで、そういうところで色々な裾野の色を出しているという状況であります。

(西川企画部長)

- ・ 確かに今、課長が言ったようにまちづくりの考えでは、課題ベースで見てまちづくりをしていこうというところから始めております。そうしますと、今、日本中の地方都市を考えますとやはり同じような課題を抱えているのかなと。そうすると同じような計画になってしまうよなという気はします。
- ・ しかしながら、構想の 15 ページのところ「未来志向のまちづくり」というのがウーブンの絡みになってくるんですけど、こういった部分は他の市町ではできない部分になりますので、ここが今回の総合計画の今後 10 年間のまちづくりとしては、一番皆さんに見ていただきたいところなのかなと思います。以上です。

(小川委員)

- ・ ウーブン・シティに関してはトヨタに勤めているものですから、高い関心を持っていただいて、前向きな御意見を沢山いただいて誠にありがとうございます。何となく歯がゆいという御意見が多かったと思うんですけど、社内的にも1月に発表した以上の内容はまだまだ決まっていなくて、すごく流動的な状態で動いているというふうに聞いています。
- ・ なので、市の総合計画に具体的にどう組み込むかみたいなのところもまだまだ作るというところまでは難しい段階なんだらうなどお察します。
- ・ 私の意見としては、考えるのであれば発表した内容の範囲、あの類のものが今はあるという仮定で考えていただくということなのかなと思いますし、何度もお話に出ているとおり、あくまで一企業の活動ですので裾野市としては勿論裾野市の全体計画が主体的にあるべきで、その中で岩波のエリアに1つああいうものができるということが、何らか貢献できれば嬉しいとも思います。
- ・ あと、別のお話で山本委員から裾野市ならではのというお話ですとか、岩瀬委員からも裾野市は割と地味じゃないかというお話があったんですけど、私の感覚としては、私も東京出身ですが、裾野市に 30 年近く住んでおりますけれど、相当色んな資源に恵まれて

いる地域かなと思います。例えば東京から100キロ圏内なわけで、静岡市等で始まっているようなワーケーションみたいな活動も十分具体的にできるようなところだと思いますし、今週ですか、また1つキャンプ場がオープンするだとか、そういう観光資源も沢山あって富士山、箱根、伊豆とありますし、沼津に行けば港があって魚がおいしいとかですね、色んな肯定材料が沢山あって、人口が5万人もいて健康寿命も長いというふうな中で、すごくチャンスのある都市じゃないのかなと私は思っていますので、先ほど岩瀬委員からもあったとおり食文化みたいなところで裾野市に来たいよねみたいなところの具体論みたいなところをもっと進むと良いんじゃないのかなと今日の計画を伺って私は感じました。以上です。

(八木会長)

- ・ それでは最後にまた時間を取りますので、次の国土利用計画の方に移ります。続きまして議事の(2)の第4次国土利用計画裾野市計画策定方針案について、事務局から説明をお願いします。

(2)第4次国土利用計画裾野市計画策定方針案

(事務局)

- ・ それでは始めに、国土利用計画と現計画である第3次国土利用計画裾野市計画(改定計画)の概要について説明をさせていただきます。参考資料2をご覧ください。
- ・ この計画の目的は、1「策定の目的」にありますように、国土利用計画法に示される「国土利用の基本理念」に即し、公共の福祉を優先させ、自然環境の保全を図りつつ、長期にわたって安定した均衡のある国土の利用を確保することが目的となります。
- ・ 2にあります「国土利用計画の体系」図をご覧ください。
- ・ 国土利用計画は、国土に広がる空間及び土地の利用に関する最も基本的な計画であり、土地利用に関する基本的かつ総合的な計画となるため、全国計画を基本として県計画があり、県計画を基に、裾野市の最上位計画の総合計画と調整を図りながら裾野市の計画を定めます。また、土地利用に関する計画は、この計画に即して策定する必要があります。
- ・ 次のページをご覧ください。計画の構成ですが、ここにありますが4つの部分から構成されています。
- ・ 始めに「土地の利用に関する基本構想」で、市の目指す基本方針等を定めます。
- ・ 次は「利用区分ごとの規模の目標」で、目標年次における土地利用面積の目標(フレームといいます)を設定します。
- ・ 3番目はその「目標を達成するために必要な措置」を記載します。
- ・ 最後は「地域別の概要と措置」で、地域をその特色から区分し、それぞれの地域ごとの基本方向を示します。裾野市では、北部・西部地域と南部・東部地域の2つに区分しております。
- ・ 4の経緯については、現在の第3次計画は、目標年次を2020年(令和2年)として、平成23年に策定され、平成29年3月に計画の見直しをしまして、上位計画である国土利用計画全国計画と県計画の改定や第4次総合計画後期基本計画、裾野市まち・ひと・し

ごと創生総合戦略などの各種計画や県の“ふじのくにフロンティア”を拓く取組等の社会情勢の変化等と整合性を図った変更がされております。

- ・ 次に参考資料3は、実際のイメージをお持ちいただくための第3次計画の概要版になります。
- ・ 初めに土地利用の基本方針としまして、「①豊かで魅力ある自然環境の保全と適切な活用」、「②多様なライフスタイルに対応した暮らしやすい市街地の形成」、「③安全で安心な土地利用の推進」、「④地域特性と広域的な役割に配慮した産業・交流機能の配置・誘導」、「⑤市民の主体的な参画による土地利用の展開」と5つの基本方針を示しております。
- ・ 次に農地や森林、原野等、土地の利用区分別の基本方向を記載してございます。
- ・ 3ページでは、先ほど、フレームと申しました、「利用区分ごとの規模の目標」が表で示されています。農地等が減少し、宅地等が増加しております。その次に必要な措置の概要、地域別の概要と措置を掲載しております。最後の4ページは構想図で、「市街地高度利用ゾーン」、「産業集積ゾーン」、「健康・スポーツ・レクリエーション交流ゾーン」、「生活交流ゾーン」「学術・研究ゾーン」とゾーン別の土地利用の方針を示しております。
- ・ 続きまして、資料4をご覧ください。これが第4次計画についての策定方針案を示したのになります。
- ・ 今回の策定は、1の目的にもありますように、これまで市が進めてきた土地利用施策の方向性を踏襲しつつ、将来的に想定される具体的な土地利用転換を見据えながら、全体的な計画見直しを行うものとなります。
- ・ 計画期間は、10年間で、令和12年、2030年となります。
- ・ 策定のポイントですが、将来土地利用フレームの見直しと将来人口・世帯数の変動との整合性を検証します。
- ・ 先ほど概要版で見ていただきました、土地利用区分ごとの土地利用面積の目標の見直しを行います。特に住宅地は将来人口の推計値との整合性を検証しながら、検討を行います。
- ・ 社会情勢や本市の実情を踏まえた将来都市構想図の見直しは、①の見直しとともにここにありますような社会経済動向を踏まえ、将来都市構想図を見直します。
- ・ 資料4にお戻りください。
- ・ 土地利用転換に係る施策・民間動向の反映及び県との調整については、今後10年間で土地利用転換に係る施策・事業がある場合や民間企業の土地利用の動向を踏まえて、将来土地利用フレームや目標に向けた必要な措置に反映します。
- ・ A3の資料5をご覧ください。
- ・ 社会情勢や土地利用転換に係る民間の動向として、今年の1月にトヨタ自動車(株)がウーブン・シティの建設を発表したことは、当市のまちづくりの前提条件が今までと大きく変わる可能性を秘めています。また、第5次総合計画の素案において、次世代型近未来都市の形成を施策の柱として市がまちづくり、ウーブン・シティと連携したコンパクトシティ・プラス・ネットワークを進めていく中で、総合計画に即した、ゾーニングの見直しを行います。それではゾーニングの見直しの方向性(案)を説明します。

- ・ ①まず、産業集積ゾーンになります。産業をこのゾーンに集約する誘導をしてくのですが、現況ではゾーニング内における工業系用途の未利用地が少なくなっています。また大手企業の大規模土地利用転換の影響に伴う今後の土地需要や北部地域まちづくり基本方針に示される職住近接の考えからゾーニングを南側に拡大することが考えられます。
- ・ 次に仙石原新田線添のエリアになります。ここは現計画では位置づけをしていない部分です。
- ・ 現在、整備を進めている神山深良線の整備と(仮称)仙石原新田線の整備が進むことにより、観光やスポーツ、深良用水と連携した土地利用、既に企業が立地していることから産業の集積等を検討したうえでゾーニングすることが考えられます。
- ・ 続いて③学術研究ゾーンになります。
- ・ 箱根西麓の市有地周辺の有効活用について位置付けていますが、人口減少に伴う土地需要が減ってくる時代に接道がない山林の位置づけが難しいところではありますが、山林保全の調和を図ることは維持しつつ、位置づけの有無を含めて検討を行います。
- ・ ④生活・交流ゾーンになります。
- ・ JR岩波駅周辺と深良地区を位置付けております。
- ・ 深良地区のまちづくりを見据えて新しい交流拠点としてゾーニングをしていますが、現在市民と進めているワークショップによる計画の熟度やウーブン・シティを契機とした市のまちづくりを考えていくうえで、生活交流ゾーンの範囲を広げることや表記についても検討を行うことを考えております。
- ・ ゾーニングの見直しについては、このような視点をもとに検討を行い、次回以降に素案をお示しできるように進めていきます。
- ・ 来年度につきましては、総合計画と合わせて国土利用計画のご審議をお願いすることになります。
- ・ 私からの説明は以上となります。

(八木会長)

- ・ ありがとうございます。議事(2)の説明が終わりましたので、本件につきまして御意見や御質問等ありましたら挙手にてお願いします。

(望月康男委員)

- ・ 仙石原新田線と、あとは神山深良線と。これでいくと産業集積ゾーンの中で、今の東名と今度、新東名が繋がりますよね。
- ・ 新東名のところでもスマートインターが駒門にできて、これはトヨタの構想が出れば県も何でも乗ってくるというか、積極的にやってるんで当然スマートインターみたいなものができてくるんじゃないかと思うんだけど、5年ぐらいの間にはできるんじゃないかと私は思ってるんだけど。
- ・ 私もあと10年、この計画が終わるまで生きてるか分からないんだけど、このスマートインターの話と仙石原新田線もあと400メートルぐらいでインター線に繋がるんで、昔あったんだけど、これ消えちゃってるのかね、あるいは当然、県もやりたいという話をしてたんで繋げちゃうのか、そこら辺を私は繋げた方が良く思うんだけどね。

- ・ それと、ただ岩波駅が今のまんまであんな狭苦しいところで、果たしてまちづくりに適しているのかどうかということで、新駅ができないとすれば、どうせ用途変更が色々出てきて、岩波駅をもう少し、もうちょっと下げると広い土地があるんですよ。だからああいうの用途変更してうまくできないのか。そういうものも構想として入っているのかどうか。これ質問なのか、夢みたいな話なのか分かりませんが、何か気が付いたことがあったら教えてもらいたいです。

(西川企画部長)

- ・ ありがとうございます。前段のウーブンの話を聞いたあとに土地利用の話をしめすと、色々夢といいますか、希望といいますか、どんどん出てくるとお思いますので。
- ・ まだ、これは見直しの案ということでございますので、皆様の御意見を聞きながらこれからゾーンについては検討してまいりたいと考えております。

(出口委員)

- ・ 参考資料3の3ページで上段の「土地の利用区分ごとの規模の目標」というところで、先ほどの御説明の中では宅地が増えてますよということでお示しはされているんですけど、平成27年から平成32年までの宅地の面積の増加が10ヘクタールということで、住宅地が5ヘクタール、工業用地が4ヘクタールというような増え方です。
- ・ これも要望なんですけど、私は銀行員で色んな企業さんが裾野に企業立地をしたいという企業が私が知る限りでも何社かあるんですけど、先ほどの御説明のとおりなかなか土地がなくて、企業立地が進まない。そういったことで断念する企業も何社か知っているような状況です。
- ・ 実際問題、例えばこの工業用地を拝見させていただいて、平成27年から平成32年まで4ヘクタールの増加ということですけど、4ヘクタール程度でしたら正直企業立地っていうのもほとんどできない感じで。
- ・ ちなみにウーブン・シティですと、ウーブン・シティの開発ってほしい何ヘクタールか御存知ですか。私が報道とかで聞いている限りですと、70ヘクタールぐらいと聞いておりますけど、その辺の規模からしても、この5年間の増加っていうのは増なのかなということにつきましては、私の立場からするとどんどん企業立地するような形になっていただきたいとお思いますので、是非その規模のところについては、地域については色々考えがあるとお思いますけど、規模についてはやはりウーブン・シティの進出も踏まえて、適切な規模感で検討していただきたいなというふうに思っております。

(八木会長)

- ・ 他にございますか。それでは先ほどの、全体の部分でも構いませんので、全体を通して御意見、御質問があるようでしたら挙手をよろしく願いいたします。

(西野委員)

- ・ 産業観光関係で申し上げたいのは、農業も商業も後継者が激減しているわけですけど、その1つの要因が商業、農業、漁業もそうですけど、非常に働き方が厳しいということで、なかなか後継者が、利益があっても後継者が減ってしまうというのは結構ありまして、やはりその辺の働き方改革ですね。それも進めませんと後継者が育ちませんので、そうした視点で少し対策をやっていただきたいと思っております。

- ・ 2つ目に観光ですけど、環境変化で産業観光というのはかなり注目されるのではないかと。しつこいくらいですけど、新しい実証都市ができますと当然そういうものを視察・研究・学習に来る人たちがいますので、そんな視点も入れても良いのかなと思います。以上です。

(山本委員)

- ・ 下から立て方の問題があるのかなと思ったんですけど、先ほど伺ってやっぱり裾野市らしいことっていうのは未来志向のことができるのは、裾野市では今のところそういうことができるチャンスがあるということがあったので、それだったら普通何ていうか、裾野市の計画なのでそこを打ち出したら、例えば教育とか健康の内容とかもどういう人材を育てるためにどういう教育をするのかも多分変わってくると思うんですよね。
- ・ 何を打ち出すのか、全部を漏れなく網羅しますっていうと結局作文になっちゃうので、それよりは全部の市民が共有して、こういう方向に進むんだとか、明確になるような作り方というのか、そういうのが大事だと私は思うんです。
- ・ 例えば、身近な話で言うと大学の目標、教育理念みたいなものを作るときにも、うちも八方美人で3つに分けて作ってるんですけど、3つのうちの1つが未来志向なんですけど、なんか結局それを言ってしまうと他の大学と差がつかない。漏れなくやってしまうと。
- ・ 1つそういうことが今回チャンスがやってきたと考えるのであれば、そこを通底するような、みんなが同じ方向を向けるような施策っていうのが必要なんじゃないかなというふうに個人的には思いました。

(八木会長)

- ・ この辺は表現的に難しいですね。ちょっと揉んでもらって、よろしくお願いします。

(市川委員)

- ・ 国土利用計画の策定になかなか関わったことがないんですけど、この図面でこういうまちを作っていきたいということが一番最初に決まっていくなのだと思いますので、やはり環境の観点から考えると、今、ゾーンの案が出てますけど、点で自然環境を守るとかは困難なので、緑の回廊をここに残すとか、そこに人が休める場所を作るとか、そういう構想がこの図から読めるような形になると市民の満足が得やすい構想になるんじゃないかと思いますので、よろしくお願いします。

(八木会長)

- ・ もうちょっと細かいような展開になれば出てくるのかなと思いますけど。ありがとうございました。その他、どうでしょうか。
- ・ それではこれで質疑を終了しますが、よろしいですね。
- ・ それでは長時間ありがとうございました。本日の議事はすべて終了いたしました。進行を事務局へお返しします。

○ その他

(事務局)

- ・ それでは、次第の4、その他といたしまして、委員の皆様から何かございますでしょうか。

(望月委員)

- ・ 蛇足なんだけど、(基本構想の)16 ページにまちの将来像があって「みんなが誇る豊かな田園未来都市すその」というのがあって、こういう時代なんで、「未来」というのは将来的に遠い感じがするんですよ。近未来と「近」を入れたらおかしいですかね。近未来っていうのは早いんですか。前に「富士山の裾野 田園未来都市 すその」に注文出したもので、裾野が2回出てくるとか。そのときに近未来という話を出したんですけど、次世代型近未来都市って言い出したんで、まあそういうような方向なんでそれで良いのかなとは思ってますけど。

(八木会長)

- ・ 巷の方ではそんなに違和感を持つという話は私の耳には入ってませんけど。

(西川企画部長)

- ・ この一文、一行だけ読みますとなかなか色んなように読めてしまう、感じちゃう、想像しちゃうとは思いますが。その下に4行ほど、富士山の裾野に広がる豊かな自然のもと、地域に誇りを持つ市民や企業等とともに、未来志向で協働・連携し、快適で安全・安心なまちづくり、人や企業に選ばれるまちづくり、住み続けたいまちづくりを進めることにより、裾野市らしい「田園」、自然ですね、それと未来志向も含めて新しい技術、未来に向けた考え方ですね、そういった「未来都市」がうるわしく調和する、というところで、こういう表現をさせていただいております。
- ・ ですから、この一行につきましては、こういった部分がベースとなって、より皆さんで感じていただきたいなというところがございますので、なかなかこれだけの一行で将来像を表すっていうのは非常に難しいということをお理解いただければと思います。

(八木会長)

- ・ 私的にちょっと一言。ウーブン・シティの動画がネットで展開されたときに、ウーブン・シティがドーンと手前にあって、バックに綺麗な富士山が出てますよね。あのプロモーションビデオが全世界に流れてますので。
- ・ あの富士山というのは、裾野市からしか見えないんです。そして、裾野市から見る富士山が日本で一番綺麗だというふうに裾野市民は思っているんですね。
- ・ 結構、山梨の方の人はこっちが綺麗だとは言うんですけど、大方、世界の方が見れば裾野市から見る富士山が一番綺麗だと、思います。
- ・ 「一番美しい富士山が見えるまち裾野市」というのを昔から謳ってるんですよ。これをもっと、もう1回再認識して、アピールしていければ負けることはありません。と思いますので。私がずっと思っていることです。以上です。

(市川委員)

- ・ 無電柱化が進めばもっと綺麗なまちになります。

(事務局)

- ・ ありがとうございます。他にございますでしょうか。
- ・ 本日、委員の皆様からいただいた御意見につきましては、今後の計画策定に反映させてまいりたいと思います。
- ・ それでは、事務局からこの後の今後のスケジュールについてお知らせします。
- ・ お手元の参考資料4「計画策定スケジュール」を御覧ください。表の真ん中の少し下に審

議会の予定を記載しております。

- ・ 次年度の審議会は、今のところ4回程度の開催を予定しております。
- ・ 次回の審議会は、5月のゴールデンウィーク前後に開催したいと考えておりますが、今、コロナウイルスなどの状況も踏まえて、こちらの日程を変更する可能性もございます。また後程、状況を見ながら事務局の方から御案内させていただきたいと思っておりますので、別途、委員の皆様と調整させていただきますのでよろしくお願いいたします。

○ 閉会

(事務局)

- ・ 以上で、本日の会議日程をすべて終了しました。
- ・ これをもちまして、第3回裾野市総合計画審議会を終了いたします。長時間にわたり御審議いただき、誠にありがとうございました。

(以上)